



1991年 イラクの病院を見舞う (有)寂 提供

皆様、お変わりございませんか。寂聴さんの好きな風薫る五月になります。今年は生誕百三年を迎えます。著書を読み進め、語り合い、たくさんのお見合いをしていきたいものです。

『寂聴と戦争』展 開催中

徳島県立文学書道館では、現在「寂聴と戦争」展が開催されています。北京で敗戦を迎えるまでの軍国

主義教育の中で、何の疑問も持たず、國家のいいなりに行動してきた寂聴さんは、自らの反省に立ち、今後は自分の頭で考え、行動していくことを決意します。

文章で戦争反対を訴えるだけでなく、湾岸戦争の際は即時停戦を願って断食をし、停戦後はイラクに渡り、戦争で傷ついた子どもたちを見舞い、病院に薬を届けました。2015年には安全保障関連法案に反対して、国会前でスピーチを行いました。病み上がりにもかかわらず、京都から車椅子でかけつけたのです。

寂聴さんの反戦への思いがこめられた著書や原稿、写真の数々が紹介されています。(5月25日まで開催)

総会のお知らせ

6月22日(日)午後2時～3時

文学書道館にて

出欠予定を5月30日までにお知らせください(メール・ファックス・葉書のいずれかで)。

総会後、本田耕一さんによる学習会「パレスチナの現状から」を開催します。

寂聴記念会だより

第6号
2025年
5月15日発行
瀬戸内寂聴
記念会
題字
島田聖翠

『寂聴先生が残してくれたもの』

元秘書瀬尾まなほさん出版

寂聴さん晩年の十年とともにした秘書の瀬尾まなほさんが、その日々を回想します。

瀬尾まなほさんが、その日々を回想します。二人の男の子の母となつて奮闘する毎日の中で考えたことを綴っています。

現在、瀬尾さんは寂聴さんの著作権管理の仕事を続ける一方、寂聴さんにすすめられた書く仕事や講演活動も続けています。寂聴さんが代表呼びかけ人を務めていた「若草プロジェクト」の理事として活動している。このプロジェクトに参加するとき、寂聴さんは

「まなほ、宇宙と自分、世界と自分、日本と自分をいつも意識しなさい。もう自分のことばかり考えていてはいけないよ」と声をかけたそうだ。

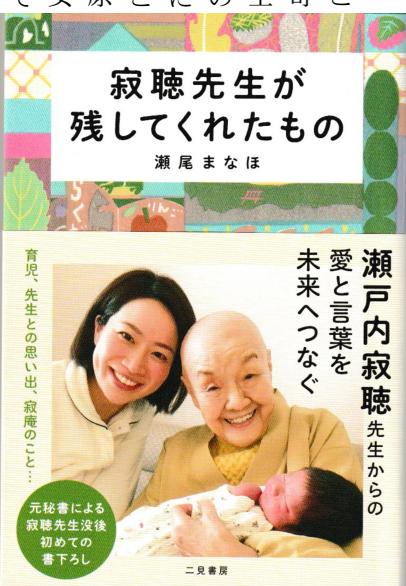
DVや性暴力、虐待、貧困などに苦しむ若い女性や少女たちに寄り添うためのこの活動は、元厚生労働省の村木厚子さんや弁護士の故・大谷恭子さんらが寂聴さんに相談に来て始まった。瀬尾さんはこの活動に参加して、親や周囲が原因で、安心して生活できない少女たちがたくさんいることを初めて

知り、社会の仕組みや支援の仕方を考えるようになる。

また「宝物」である、三歳と五歳の子どもに挟まれて眠る幸せも綴る。自分が育った祖父母の住む田舎で、子どもたちをのびのびと遊ばせて、幼少期を思い出し、自然の中で愛情を受けて育つことに感謝する。

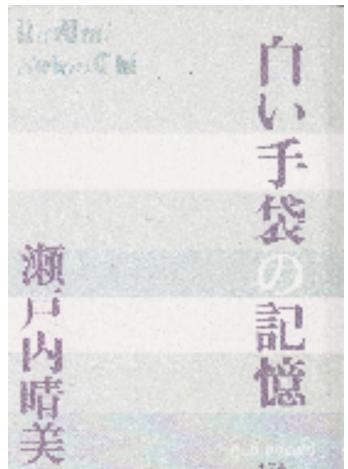
「私が死んだらチビのこと守つてあげる」と言い残した寂聴さんは、長男を「最後の恋人」と呼んでかわいがつた。一緒に寝て子守唄を歌い、絵を描き、遊んだ。

夫婦別姓の議論が続く現在に、「まだそんなこと言つてるの? 100年前にそれおかしいって私言いましたよね?」と平塚らいてうなら怒りそうだと想い、「烈しく美しく生き、死んでいった寂聴先生や野枝たちに、私はこれからも問われづけるのだろう」と書いている。



行事報告

「寂聴文学を愉しむ会」 12月19日



う映画があつた。デニーロ扮する夫が
プラトニックなんだ、と告白するシー
ンがある。妻はそれでよけいに怒るん
です。プラトニックよりも体の関係
があつたほうがマシ、より本気度を感
じるからと。

純文学の作家は短編という限られた枠のなかで、いかに冒険するかを考える。この短編に関しては、時制の流し方に於いて冒険している。

好きになつたきつかけの文章。 ◇

作品一痛い靴
(同人誌「文学者」1955年5月号に
掲載。寂聴の純文学処女作といわれ、

作品一痛い靴

1955年5月号に
学処女作といわれ、

『白い手袋の記憶』に収録されている。

参加者の感想
主人公の頬子の嫉妬心が強烈に表現
されている。思い詰めた女の凶暴さ、
惨めさが印象的。でもその憑りつかれ
た状態から、最後明るい未来が見えて
ホッとした。

第6号 2025年5月15日

寂聴記念会だより

寂聴さんはこの頃から、愛とか性とか、三角関係などのテーマではつきりと描いているんですね。あと、題名が「痛い靴」、いいタイトルですよね。

寂聴さんはこの頃から、愛とか性と
△

この小説に出てくる靴つて神髪つて
買った高級な靴なのかな。なんで女性
は、わざわざ足に合わない痛い靴を買
うの？でも新しい靴を穿いて、夫へ向
けて蹴上げるしぐさは可愛い。なるほ
ど、靴は生き方か…なかなか男には分
からないよ。

ラストで主人公の頬子が考えを変え
て再出発するのに対し、夫はその変化
についていけない。女は傷ついても、
糧にして開き直つて前に進む。

参加者の感想

戦争の画一的な教育の怖さを思う。自分の愚かさを白状しない限り前へは進めない、という寂聴さんの決意を感じる。

1

この小説は出てくる靴つて並強つて
買った高級な靴なのかな。なんで女性
は、わざわざ足に合わない痛い靴を買
うの？でも新しい靴を穿いて、夫へ向
けて蹴上げるしぐさは可愛い。なるほ
ど、靴は生き方か：なかなか男には分
からないよ。

を齧りながら「わたしはもう二度と食えたりはしない！」と叫びながら誓うシーンを思わず思い出した。

この作品を読んで思い出したのは、同時代の作家、三島由紀夫の「金閣寺」。戦後社会とどう折り合いをつけて生き、小説家として立つのか、三島は苦悩し、「金閣寺」を書いた。

◇ 皆の意見でこの短編は時制の流れが不規則で、話が掴みにくいくらいであった。

生涯、作家として反戦、反権力の立場で物を書くという原点がこの作品にあることがよくわかります。「一たび、目のうろこをはがされたわたしは、もう決して、じぶんの目でみつめ、じぶんの手でふれ、じぶんの魂が感得したものでないかぎり、何物をも信じまいと決心した」。私にとつて寂聴作品を

私の父は昭和2年生まれ。兵隊になるための健康診断に高松へ行つたけれど、結核がわかり返されてしまった。本人はものすごく戦争に行くつもりだつたのに、あなたは体が駄目だ、と言われたと。二十代の青春を療養して過ごした。でも戦争に行かなかつたから、いま私はここに居るんだなと実感。

◇ 作品集の最後にこの「白い手袋の記憶」が配置されている。その配置、順序の意味、そして重石のような最後の作品。その意味をもう一度考えたい。

『余白の春』を読む 4月18日



◇ 金子文子はマグマのような人ですね。生まれた時からの逆境も物ともせずに、自分の人生は自分で切り開くその熱量に圧倒。文子の手紙の文面は男臭い文章、でも短歌は素直でいじらしい。過酷な環境に生まれてなければ、頭の良い優しい女性でいられたのかも。

◇ この作品は「婦人公論」1971年1月号～72年3月号に連載された。大逆事件の首謀者として捕えられ、獄中で23歳で自死した金子文子の生涯を描いている。

参加者の感想

文子は幼少の頃から過酷な境遇で育ち、だからこそ虚無主義に傾倒していくのは納得。でも同じ思想を持つ朴と出会って、希望が見えたのでは。大変な人生だったが、精神的には幸福だったと思う。驚きは、その才能。彼女は予審廷で答弁を、原稿なしでまくし立てたり、獄中で七百枚の自伝を書いたり。その自伝がなければ寂聴さんもこの本を書けなかつた。そう思うとペンの力はすごい！

◇ 人生はほんとうに理不尽。父親は自分の都合で文子の戸籍を作らなかつた。加えて、朝鮮での祖母と叔母のいやらしさと言つたら。日本は朝鮮を侵略して悪いことをしたけれど、当の日本人はそれが「あんばん」をやつているが、裏切らない

◇ 文子は誰にも愛されず、一生を終えた気がする。彼女に愛を注いだ人は出でこない。朴にしても。彼女は愛を求めていたのに…。母親からも愛情を注がれなかつた。自分からは恋をするけれど、温度差があつた。ほんとうの愛とか恋とかを求めながら生きていたのでは。例えば母のことを短歌に書いていて、母への報われない思いとか、愛とかを抱いていたのが分かる。可哀そうな印象をどちらかと言うと彼女には感じる。

◇ 人生はほんとうに理不尽。父親は自分の都合で文子の戸籍を作らなかつた。加えて、朝鮮での祖母と叔母のいやらしさと言つたら。日本は朝鮮を侵略して悪いことをしたけれど、当の日本人はそれが「あんばん」をやつているが、裏切らない

◇ 金子文子はマグマのような人ですね。生まれた時からの逆境も物ともせずに、自分の人生は自分で切り開くその熱量に圧倒。文子の手紙の文面は男臭い文章、でも短歌は素直でいじらしい。過酷な環境に生まれてなければ、頭の良い優しい女性でいられたのかも。

◇ 作品タイトルが『余白の春』となつているが、その題の意味って何？ そういえば、作中には、余白の春という言葉は出てこない。単純に考えると、「春」が来なかつた、「余白」にしか春がない、という感じか。彼女が理想とする社会がまだ到来していない、という想いとか。ただ、この作中にはあまり春のイメージはない。

◇ とすれば、なぜ寂聴がこのタイトルにしたのか、本人もなにも語っていない。今となつては永遠の謎。

◇ 文子は誰にも愛されず、一生を終えた気がする。彼女に愛を注いだ人は出でこない。朴にしても。彼女は愛を求めていたのに…。母親からも愛情を注がれなかつた。自分からは恋をするけれど、温

度差があつた。ほんとうの愛とか恋とかを求めながら生きていたのでは。例え

◇ 母のことと短歌に書いていて、母への報われない思いとか、愛とかを抱いていたのが分かる。可哀そうな印象をどちらか

◇ 人生はほんとうに理不尽。父親は自分の都合で文子の戸籍を作らなかつた。加えて、朝鮮での祖母と叔母のいやらしさと言つたら。日本は朝鮮を侵略して悪いことをしたけれど、当の日本人はそれが「あんばん」をやつしているが、裏切らない

◇ 人生はほんとうに理不尽。父親は自分の都合で文子の戸籍を作らなかつた。加えて、朝鮮での祖母と叔母のいやらしさと言つたら。日本は朝鮮を侵略して悪いことをしたけれど、当の日本人はそれが「あんばん」をやつしているが、裏切らない

◇ この読み物を朝鮮半島の人が仮に読んだなら、どう思うだろうか、という視点で読む。この本をハングル語に翻訳して出版したとしたら、韓国社会で受け入れられるだろうか？ 私は受け入れられると思う。なぜなら韓国人が読んでも共感できるから。この本には日韓の歴史的背景や戦時の日本に侵略された朝鮮人たちの想いが出てくる。そういう意味でも、この本が日韓を繋ぐ架け橋のような存在になるのでは、と考える。

文学と朗読 「夢はかり」

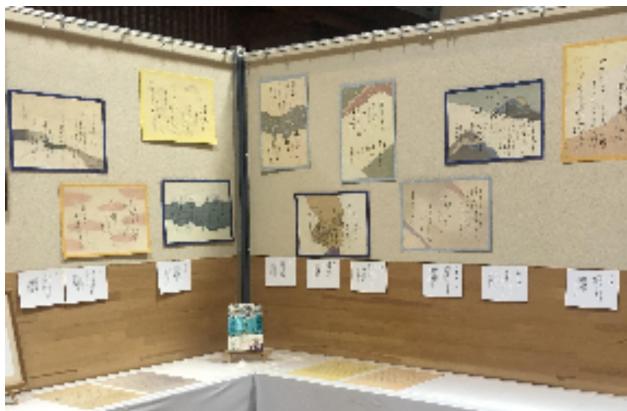
事務局 藤村純子

また若葉萌ゆる季節が巡ってきた。朗読を活かせる場を作ろうと2017年6月に仲間と立ち上げた、文学と朗読「夢はかり」の活動は、今年丸八年を迎える。

その間、手探りながらも、金子みすゞ展、柏木康浩著「瀬戸内寂聴物語」朗読会、羽尻利門展、太田治子著「幻想美術館」朗読会など、徳島にゆかりのある作家や作品を取りあげ、著者をお迎えして朗読とトークで紹介してきた。

どのイベントも、予想以上の来場者と多くの方々のお力を借りしての開催であつた。その都度、ゲストのトークからは興味深い未知の世界が窺え、作品に込められたメッセージや歴史的背景を知ることで、より作品の深さに気づかされる。お客様と同じ場所で、同じ時間を共有する「一体感」仲間とともに温めてきた想いを形にする面白さや達成感は、何ものにも代え難い経験となつた。

20年前、なんとなく始めた朗読だったが、



「瀬戸内寂聴記念会」発足後は、俳句「寂聴を詠む」全国募集や「寂聴忌句会」に関わらせていただき、昨年の書道展（聖翠展）では、「寂聴源氏物語」をテーマに各々が和歌を選び仮名で表現した。並べて展示した美しい装丁の本「寂聴源氏物語」は多くのお客様の目に留まつたようだ。

微力ながらも「寂聴さんを後世に残す」お手伝いができればと思うている。なお「夢はかり」は、ほぼ全員「瀬戸内寂聴記念会」の会員である。

「瀬戸内寂聴記念会」発足後は、俳句「寂聴を詠む」全国募集や「寂聴忌句会」に関わらせていただき、昨年の書道展（聖翠展）では、「寂聴源氏物語」をテーマに各々が和歌を選び仮名で表現した。並べて展示した美しい装丁の本「寂聴源氏物語」は多くのお客様の目に留まつたようだ。

2009年の文学書道館「寂聴展」で「場所」を、その後「比叡」を、ナルト・サンガでは「夏の終り」を輪読する機会を得、だんだんと朗読の魅力に引き込まれていった。寂聴作品は女性の生き方や心の機微が独特な文体でいきいきと描かれ、読むほどに心惹かれていく。今でも練習でボロボロになつた台本を開くと、忽ち仲間に助けられながら読んだ「場所」が蘇る。「場所」が私の朗読の原点だと改めて感じている。

朗読から出発した「夢はかり」は、今では読書会（大石征也代表）、句会（佐滝幻太代表）、書道教室（島田聖翠代表）が加わり、文学を愛するメンバーが増えた。

地域再生大賞は、人口減少や高齢化に悩む地方で、まちおこしや地域課題の解決に取り組む団体を応援しようと、地方新聞47紙と日本放送協会、共同通信社が創設したものです。

今回は「今、ここで暮らしたい」と拓くエネルギー」がサブテーマで、優秀賞を受賞しました。

「機関誌や講演会など多彩な活動で郷土の作家を顕彰する取り組みを選考委員が高く評価しました」と事務局よりメッセージをいただきました。

この賞を励みに、今後とも互いに研鑽し、末永い活動を続けていくことを願っています。

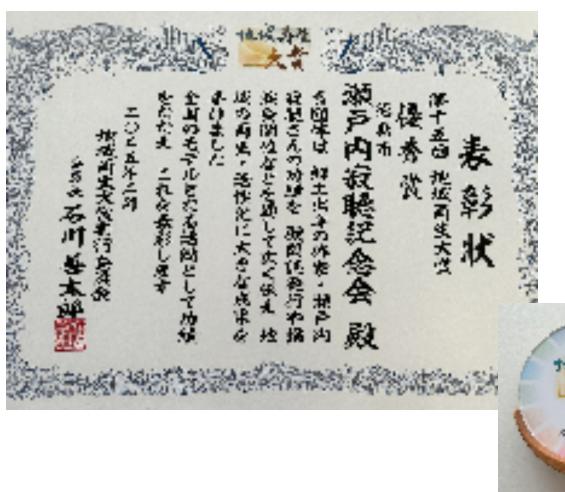
伝記はすべて、対象に著者の魂が投影されている。そこに読者にとっては二重の読む愉しさが加えられるのである。

寂聴の書評―島本久恵著『明治の女性たち』―より（1966年11月「週刊読書人」）

第15回 地域再生大賞 優秀賞受賞

2025年2月27日

寂聴のことば



お知らせ

新年度になりました
会費3000円の振込をお願いします。

阿波銀行 蔵本支店
普通 12229692
清重康代

徳島大正銀行加茂名支店
普通 8601495

瀬戸内寂聴記念会
会計 清重康代

機関誌「寂聴」4号
原稿締切は9月15日です。

瀬戸内寂聴記念会 事務局
〒770-0856 徳島市中洲町3-40-802
Fax 088-661-3292
email kikanshi@setouchijakucho.com